

沖縄・先島諸島で 日米が訓練強化

米軍構想に住民懸念

日本両政府は、台湾有事を想定し米軍が陸上自衛隊駐屯地に一時的な補給拠点を置く構想を急頭に、沖縄県・先島諸島での訓練を強化している。1月の安金保障協議委員会(2プラス2)の合意に基づき、初めて石垣島を舞台に共同訓練を実施。ただ戦闘に巻き込まれるとの懸念が住民に根強い中、米軍の拠点構想が非公表のままなし崩し的に進展する恐れがある。

拠点構想は台湾有事を想

定した日米共同作戦計画案の一部とみられ、構想も含め案自体は公表されていない。1月の2プラス2で、南西諸島の施設の共同使用や自衛隊と米軍の共同訓練を増加させることが一致したのは、中国軍に対する補給への懸念が背景にある。

米海兵隊も11月15日、沖縄県内の部隊を改編し即応性に優れた「海兵沿岸連隊(MLR)」を創設した。MLRは台湾有事が差し迫れば、先島諸島などの島々に部隊と弾薬を配備する「事前築積」という戦術構想の運用を担う予定だ。

10月の陸上自衛隊と米海兵隊による大規模実動訓練「レブリュート・ド・カーン(不屈の竜)」では、陸自と海兵隊による「共同調整所」を与那国、石垣両島の陸上駐屯地に設けて連携を確

めた。米軍構想は、台湾有事で、米兵が日覚的に島にいることになれば不安だ(与那国町の飲食店経営者)と述べ、紛争の矢面に立たざる」とへの不安が募る。先島諸島を巡っては、宮古島、与那国島に加え3月に石垣島に陸自駐屯地を開設したばかり。米軍は陸自駐屯地の積極的な活用を求めるが、防衛省幹部は「住民感情も配慮し、先島での自衛隊の安定的な駐留が最優先だ」と述べることもある

